

経営改善計画書(令和5年度～令和7年度)

団体名	公益財団法人鳥取市人権情報センター
-----	-------------------

様式2

現状と課題	令和5年度に行われた「人権施策基本方針」の第3次改訂に沿って、研修のテーマを設定しながら啓発に取り組む。研修参加者の満足度は高いが、もっと多くの市民に関心をもって参加してもらえよう、広報にも力を入れていきたい。
経営方針 (令和7年度目標)	鳥取市で働き、暮らす多くの人が自らの人権に自覚的になり、あわせて他者の人権も尊重できる「人権尊重都市鳥取市」が実現できるよう寄与するとともに、公益法人として市民に信頼されるセンターとして活動を継続していく。

視点	7年度目標 (期間内の最終目標)	年度	実行計画		実績		分析、評価コメント（経営改善効果）	市担当課コメント
			取組内容	目標値	取組状況	実績値		
経営改革 (財務面での長期見直し)	効果的で効率的な運営	5年度	他団体などとの協働の取り組みによる経費の節減と集客	1回以上の事業の共同開催	ヒューマンライツセミナーを世界人権宣言推進鳥取市実行委員会の共催で開催し、その費用を按分	100%	はじめてセンターの取り組みに参加された方がとても多く大変良いPRとなった	・企業や団体に対する研修の機会を積極的に得ることとセンターのPRにつなげていただくとともに、団体として長期的な視点による経営改善や収入に繋がる取組などをさらに検討する必要がある。
			PR方法の検討	印刷費の軽減	事業後のアンケートで参加者のSNS利用状況を調査	達成	SNSを利用したPRを増やすことで紙媒体を減らすことにつながった	
		6年度	他団体などとの協働の取り組みによる経費の節減と集客	1回以上の事業の共同開催	世界人権宣言推進鳥取市実行委員会と鳥取市地区人権啓発推進協議会連合会との共催で人権フォーラムを開催	100%	経費の節減と新たな参加者獲得につながった	
			IT技術の活用	要約筆記費用などの軽減	AI字幕の導入	達成	要約筆記費用の削減となった	
		7年度	他団体などとの協働の取り組みによる経費の節減と集客	1回以上の事業の共同開催	世界人権宣言推進鳥取市実行委員会と非核平和都市宣言推進鳥取市実行委員会、鳥取市地区人権啓発推進協議会連合会との共催で人権フォーラムを開催	100%	経費の節減と呼びかけの広がりにつながった	
			外部資金の活用検討		他団体への聞き取り		設立趣旨との兼ね合いもあり今後も要検討	
組織改革 (組織見直し、人材育成)	く満足度向上につながる組織・人材づくり	5年度	職員の自己研鑽	オンラインも活用し研修へ積極参加	オンラインを活用し多くの研修を受講	達成	予算的にセンターで呼べなかった講師の話なども多く聞くことができ、自己研鑽につながった	・一人ひとりが具体的目標を定めて業務に取り組むことや、県や他市の人権センターとも交流し、職員の人材育成・能力向上に繋げていただきたい。また、積極的に研修を受講する等の自己研鑽に努めていただきたい。
			PR方法見直しによる参加者増	アンケートで確認	各事業でそのほかの事業のチラシを配布しPR	達成	1つの事業に参加した人がチラシを見て、ほかの事業への参加につながった	
		6年度	職員の自己研鑽	オンラインも活用し研修へ積極参加	直接参加、オンラインで複数の研修を受講	達成	旅費が安い中、鳥取市内の研修だけでなく、オンラインでさまざまな人の話が聴けた	
			IT技術の活用による多様な人々の参加	障害のある人や日本語母語でない人の参加	AI字幕の導入により全部情報の提供が行えた。	達成	障害の有無は外見からだけでは判断できないが、アンケートでは多くの参加者にとって好評だったことがわかった	
		7年度	職員の自己研鑽	オンラインも活用し研修へ積極参加	直接参加、オンラインで多くの研修を受講	達成	オンラインで距離も関係なしにたくさんの方の話を聞けるのはよいが、やはり対面ならではの醍醐味もあり、できるかぎり直接聞ける機会も設けたい	
公益増進 (顧客サービスの向上、社会貢献)	要望への速やかな対応	5年度	満足度アップのためのアンケートの実施	毎回実施	毎回実施	100%	テーマによってはなじみがなく難しく感じられるものもあるが概ね好評	・公益法人として社会的に信用を高め、市民サービス向上が図れるよう積極的に研修を受講する等の自己研鑽に努めるとともに、調査研究の発表や啓発冊子の活用など、積極的に事業の成果を公表していく必要があると考える。
			アンケートの検証	年間を通して実施	提示された課題があればすぐ取り組めるものはすぐ、検討が必要なものは検討し改善	100%	スクリーンを使われる講師が多く、見え方、場所など随時工夫して行っている。	
		6年度	満足度アップのためのアンケートの実施	毎回実施	毎回実施	100%	多くの人が今後活かせる視点を持ち帰られたことがわかった	
			アンケートの検証	年間を通して実施	アンケートの結果から、若い層へのPRとしてInstagramを開設	100%	新たな参加者獲得につながった	
		7年度	満足度アップのためのアンケートの実施	毎回実施	毎回実施	100%	講師の話っぷり、初めて知識を得た喜び、お悩み解決、参加者の満足度をはかるのには思いのほかむずかしいため、自由記述に書かれる内容を重視し、検討を続けている	
			アンケートの検証	年間を通して実施	アンケートの結果から、参加者向けにチラシに掲載する内容を追加	100%	参加者の満足につながるものと思う。今後も参加者の声を大切にしたい。	